

不登校対応について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、1年生の1学期末頃から体調不良により欠席が多くなり、人間関係の不安から学校へ登校できなくなった。その後、登校できない期間が長く続いたが、担任や学年主任からの働きかけで、放課後に登校できるようになった。また、3年生の1学期には行事にも参加し、他の生徒と交流することもできた。

具体的な取組

電話での連絡だけではなく ICT 端末を活用するなど、細やかに連絡をとることで、学級の出来事や今後の流れを伝えることができた。そのことで、当該生徒は安心して登校することができた。

本校では不登校生徒に対して「+1 (プラスワン)」という取組を職員一同で行い、元担任・部活動顧問・学年主任など生徒にとって関わりやすい教員が保護者と連絡をとっている。



個別で学習ができる別室

担任だけではなく、学年主任・不登校担当の教員も放課後に面談を実施している。その結果、学校生活に対して少しずつ前向きに捉えることができ、行事へ参加することもできた。他の生徒と同じような学校生活は難しくても、本人にとって負担のない形で学校生活が送れるよう、学校・家庭で相談している。

学級に入れない場合に、個別で学習ができる別室を用意している。学習内容を把握し、その後の指導に生かすために、別室での学習内容や時間を記録に残している。その際も担任だけではなく、学年の教員で対応している。「学級に入れないから学校を休む」のではなく、「学級に入れないなら別室へ」とすることで、学校とのつながりを築けている。

成果

本校は不登校生徒が各学年に複数人いるため、定数内の教員だけでは十分に対応できなかったが、加配教員がいることで、上記のような取組ができている。その結果、学校に対して前向きに考えられるようになった生徒が増えた。

課題

ここ数年で、欠席をすることへの心理的なハードルが下がってきている。一人一人のニーズにあった対応が求められるが、人手の確保が課題である。